

森づくり県民大作戦 お問い合わせ先

静岡県 暮らし・環境部 環境ふれあい課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

TEL 054-221-2664 FAX 054-221-3278

静岡森づくり情報

<http://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-080/mori/index.html>



この「ふじのくに森の町内会」の紙には、林地に捨てられる間伐材を資源として活用する費用が含まれています。



静岡県は県土の3分の2が森林におおわれています。

森は、私たちの暮らしを豊かにする、県民にとってかけがえのない存在です。

そこには、遊園地やデパートでは見つける事ができない「よろこび」や「出会い」「発見」があふれています！

ここでは、2011年度の森づくり県民大作戦の様子をご紹介します。

森づくり県民大作戦とは？

森づくり県民大作戦は、平成12年からスタートした県民参加型の森づくり行事です。森づくり団体や企業、行政などが県内各地で多彩な行事を開催し森を「守る・育てる・学ぶ・活かす」ことを推進しています。

森づくり 県民大作戦 イベントマップ 2011

平成24年11月静岡県開催「第36回全国育樹祭」記念行事



INDEX もくじ



森を守る P.3-4

今、森の荒廃が大きな問題になっています。森を健全に保つ事は、温暖化を防止したり、台風などで土砂崩れが大きくなるのを防いだり、私達の生活を守る事につながります。そのためにも、間伐や、放置竹林の伐採など、森を守るための活動が必要です。



森を育てる P.4-6

木を植えて育てると、そこには森ができます。森は、人間が排出した二酸化炭素を吸収して地球温暖化を抑え、樹木の根によって、土壌を安定させて、土砂災害などを防止します。さらに、土壌を豊かな有機物で満たし、栄養豊富な水を産み、生物を育てる役割があります。

森を学ぶ P.7-8

森を学ぶことは、森の循環を知り、将来の私達の子孫に残すべき素晴らしい自然を守る事につながります。子供のころに自然にふれる体験をすれば、「学び」の意欲の向上、道徳観や正義感の形成につながる、とも言われており、教育の場としても最適です。



森を活かす P.13-14

森は木材や山菜など、さまざまな資源を産みます。これらの資源は、森を適切に管理することで、繰り返し、生産できます。これを循環型資源といいます。今、エコが叫ばれる中、これらの資源は、環境負荷が少なく、石油に代る原料として、注目されています。



※各行事の詳細等については、それぞれの連絡先へお問い合わせください。

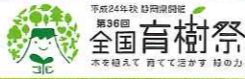


5

地図 NO.

イベント名

里山めぐり



主催 里山どんぐりの会

問い合わせ先 0547-35-3448 (鈴木)



コース途中に現れる見事な石積み
の沢。沢の上にある、石積み
の段も見どころ。

こども達に、遊べる山の環境を・・・

島田市の「阿知ヶ谷アルプス・ハイキングコース」の北側にある野田山のふもと、立石稲荷から頂上を目指す、新しく出来たコースに、「標識を立てながら、里山の動植物を観察して、歩こう!」というイベントです。「里山どんぐりの会」が整備していた山が、ハイキングコースにつながりました。白くペイントされた板に、参加者が「道しるべ」を書き込み、さらに参加者の名前やサインも書き込み、道程に設置していきます。再びコースを歩いた時に、自分のサインを見つけて、里山整備の「楽しさ」を感じて欲しいそうです。コース途中、見事に積み上げられた、石積みの沢は、明治43年の水害の際に地元の人々が力を合わせて作り上げたもの。山の手入れをしていく中で発見した素晴らしい景観です。子供たちが沢山訪れるような素敵なコースができました。



巨石を祀る立石稲荷。今人気のパワースポットから、ハイキングコースが始まります。



会の皆さんの協力
で取り付けた案内板。



里山どんぐりの会代表 鈴木眞一郎さん
近くの山で子供達が遊べるように整備して、自然とのふれあいが出来たり、気持ち豊かになるような場所を作りたい、という思いで、日々活動しています。



2

地図 NO.

イベント名 春に植えた幼木の手入れをしよう



主催 椎ノ木谷保全の会

問い合わせ先 053-472-3058 (高柳)



「ぼくの植えた木だよ!」嬉しそうに、案内してくれる男の子。



草取りをしていると、カブトムシの幼虫が沢山出てきました。

地域のオアシスになあれ

浜松にある椎ノ木谷緑地は、絶滅危惧種など、貴重動植物の存在も確認され、今では珍しくなった昆虫達を育む、豊かな自然環境が残されています。この森を守るために活動しているのが、「椎ノ木谷保全の会」の皆さんです。この日は、春に植えた松やコナラなどの苗が、夏の台風で傾いているのを起こし、根元に土を寄せ、支柱を立てて縛り、まわりの草を刈取りました。参加した子供達は、春の植樹で自分の名札を付けたので、木々達に愛着を持ち、手入れをしています。「椎ノ木谷キッズ」の子が、「大人の人に色々教えてもらって、基地も作ったんだ!この森の事はよく知ってるよ!」と笑顔で色々な場所に案内してくれました。森は、様々な形で、私たちの成長を見守ってくれています。椎ノ木谷保全の会では、一緒に森を守り、楽しんでくれる仲間を募集しています。



「小さな親切」運動で集まってくださった皆さんと一緒に。

1人では何時間もかかってしまうけれど、みんなでやると、あっという間です。動植物のために除草剤を撒きたくない場所なので、参加者のみなさんが草取りをしてくれて感謝しています。



椎ノ木谷保全の会
副代表
高柳清吾さん

※椎ノ木谷保全の会では、「椎ノ木谷キッズ」という活動をしています。皆さんの参加をお待ちしています。

7

地図 NO.

イベント名

森の感謝祭



主催 大井川「白羽山はばたきの森」に集う会 問い合わせ先 0547-56-0015 (小澤)



除伐する予定の木を見上げる。



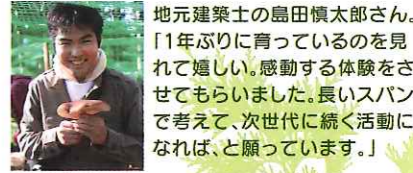
植樹5年目の「彩りの森」を見下ろし、森づくりの計画を練る。これも楽しみのひとつ。

時間をかけて守り、育てる事を楽しむ夢の「森づくり」

晴天の中、川根の白羽山で行われた「森の感謝祭」。主催した大井川「白羽山はばたきの森に集う会」は、民間の森づくりグループです。多くの人々が交流しながら、森を楽しく守り、育てる活動を100年先まで続けることを目標とし、白羽山周辺の森1haを借り受け、様々な活動を行っています。「森の感謝祭」は、その活動の成果を皆で観察しながら、今後の森づくりを考える、という日でした。最初に除伐作業をしてから皆で頂上に上り、「良い感じに育っているね」と成長を確認しながら今後は語りあいます。まさに、これが、「自分たちの森づくり」の醍醐味ですね。森を守りながら、長い期間をかけて人生の楽しみを見つける・・・そんな素敵な活動でした。



この日は初参加の方も多く、元気に除伐する女性の姿も。



地元建築士の島田慎太郎さん。「1年ぶりに育っているのを見て嬉しい。感動する体験をさせてもらいました。長いスパンで考えて、次世代に続く活動になれば、と願っています。」

大井川「白羽山はばたきの森」に集う会 代表 小澤節子さん
今日は、いつものように、ハードに動くのではなく、普段の活動の「ご褒美」の日だから、森を楽しむ会にしたい。地元は、林業に忙しく、ボランティアになかなか参加できない人もいますので、都市部の人々が通って森づくりを楽しんでくれるのは、とても嬉しい事です。



6

地図 NO.

イベント名 三ツ池周辺里山づくり “秋の植樹祭”

主催 三ツ池里山の会

問い合わせ先 090-3836-4389 (鈴木)



急な斜面ですが、協力あい、沢山のさくらんぼの苗が植えられました。



みんなが集える森を作っていきたい

池が目の前に広がる、穏やかな里山の風景に心が癒されます。この日は、「小さな親切」運動の皆さんと共に、「さくらんぼ」の苗を植えました。竹林の整備は大変手のかかる作業ですが、この森づくり県民大作戦へ沢山の人が参加してもらって、山への愛着、桜の成長を楽しみにしてくれる人が増えるように、という願いが込められています。会の皆さんは、桜が咲いた時に木の下で語りあうことを楽しみにしているそうです。植樹が終わると、皆で「炊き込みご飯」や「焼き芋」など、秋の恵みを頂きました。「育てる」という作業は、まだまだ続きますが、後の世代へ素晴らしい「里山の景観」を残すための大切な行事となりました。



三ツ池里山の会 会長 鈴木保雄さん

普段は竹林などを整備して、皆が集える山づくりをしています。この山も、この地域も大好きなので、皆が集える場所にしたい、というのが夢で、日々の手入れを行っています。皆さんの参加、ご協力をお待ちしています。



作業後の食事は格別です。





11
地図 NO.

イベント名

昆虫を呼ぶ森を作ろう



主催

富士山こどもの国

問い合わせ先

0545-22-5555 (小林)



家族の記念に…二十年後の森への思い

暖かな秋の日、こどもの国からは、綺麗な富士山が一望できます。この日、富士山こどもの国で自然学校と植樹が行われました。自然学校は、昆虫・サバイバル・里山、畑…など、様々なクラスがあります。そのなかの昆虫教室を紹介します。

植樹した樹種はクヌギとコナラ。将来、カブトムシなどの昆虫の棲家になる森づくりです。長泉から来ていたご家族は、インターネットでこの学校を知り、植樹も2回目だそうです。20年後、娘さんの子供と、皆で虫を捕まえに、この森に来たいのだそう。「これが、あの時植えた木だよ!」と言えるよね、と微笑んでいたお母さん。森を育てるイベントが、後々、家族のイベントになっていくのですね。親子での植樹は、とても良い記念になったようです。



昆虫研究家・農学博士の平井剛夫さんが昆虫教室の先生です。

この虫なあに?



夢中になって虫捕りをする子供達。こういう経験が好奇心や創造力の源。



森は好奇心の宝庫です

昆虫教室は、一年を通して行います。昆虫の体のしくみから、様々な種類、季節よっての移り変わり、飼ひ方なども学びます。今回は、前回の教室で巻いた、菰(こも※わらで織ったむしろ)の中の虫を観察します。菰巻は、本来、松の害虫を菰に集め、春になったら、菰ごと外して焼き払う、という害虫駆除の目的があります。木を守り、育てる上で大切な工夫の一つです。今回は、観察のために、ちょっと早い菰外しです。子供達は、指示に従って、菰を外して、内側に隠れていた虫を、プレートで拾い、ピンセットで殺虫管に入れていました。さすがに、昆虫教室の子供たちは、男の子も女の子も、虫が平気です。色々な虫が這い出てきても、物怖じせず、先生の所へ持って行って、集めた虫の名前を確認していました。



上手にスコップ使えたかな?



家族で協力して…



虫が集まる大きな森になりますように!



富士山こどもの国 小林亜由美さん

長期的な目で見ないといけないのですが、植樹をして、立派な森を作り、昆虫や小動物などの多様な環境を通して、子供達に自然の大切さを教えていきたいと思っています。



自然学校の収穫祭。畑のクラスが作った野菜を料理したり、餅つきも行われました。

12
地図 NO.

イベント名

田中山の森にふれる一日



主催

静岡県東部農林事務所・悠頂台くらぶ

問い合わせ先

055-920-2170 (伊藤)



「育てる」楽しさを体験してほしい

気持ちの良い風と暖かな日差しの中、田中山で「森の恵みを育み活かそう!」をテーマにした活動が行われました。少年の部は、自然観察会やクヌギの植樹、アクティビティ。成人の部は、ヒノキの枝打ち、植樹、竹林整備などを行いました。子供達は、自然観察の途中で枝打ち作業を見学して、悠頂台くらぶの廣澤福松先生から「枝打ちをする事の大切さ」を教わりました。

自然観察が終わると、アクティビティです。先生が、何本かの樹木に目印を付けました。子供達は、ペアになり、かわりばんこにタオルで目隠し。目隠していない子が誘導して、樹木を手で触って、感触を覚え、樹種を言い当てる!というゲームです。「この木は、縦に広い筋がはいってるから、コナラかな?」「これは、横に刻んだような線があるから…桜!」普段から、森のイベントに参加している子供達は、樹種に詳しく、次々と当てることができました。



枝打ちは、ヒノキの価値を高めるだけでなく、下草の育成を通じて、土壌の流出を防ぐ大切な作業。



ガリ
ガリ



ガリ
ガリ

よいしょ!

大人に手伝ってもらいながら、2本目、3本目は「1人で出来るよ!」と頑張ります。たくましいですね。



クヌギ

クヌギの植樹は、最初に葉を落とします。「全部取ってしまうのは、可哀そう!」と言う子供達。根付きを良くするために、葉から水分が蒸発するのを抑えるためだと教わり、大切に植えていきました。植樹を終えると、バウムクーヘン作りです。実際の木が育つように、年輪を重ねて作るケーキ。「育てる」ことは大変で、手間のかかる作業だけれど、皆でやれば違う視点も見つけられます。子供達は、植樹も、バウムクーヘン作りも、同じように楽しんでいました。



手作りのバウムクーヘンは、森の中で食べる最高のおやつです。



静岡県東部農林事務所 森林整備課 伊藤 愛さん

今回は、クヌギの植樹を行ったのですが、親御さんにもお子さんにも、自分が植えたクヌギがどうなっていくのかを、長い目ですと田中山に親しみを持って見続けていただけたら、と思っています。

